

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第24号

令和7年3月
和歌山県
長寿社会課

生活支援コーディネーター活動事例紹介 かつらぎ町「地域資源の把握と結果の活用」

かつらぎ町では、町社会福祉協議会の竹本さん、澤本さん、横山さんが生活支援コーディネーターとして活躍されています。

今回、地域調査の実施により把握した地域資源を活用した生活支援体制整備事業の進め方について、様々な取組に同行し、取材をさせていただきました。



生活支援コーディネーター
竹本さん 澤本さん 横山さん

かつらぎ町の生活支援体制整備事業

かつらぎ町では、令和4年度から町社協の3名が生活支援コーディネーターを担っています。当時、生活支援コーディネーターとしてまず始めに取り組んだことが地域調査です。とにかく地域に出向き、地域のキーパーソンや、地域の要となっている商店等への聞き取り調査を実施し、地域の状況や特色の把握に取り組みました。

その結果は、生活支援コーディネーターが発行する「ふくまる通信」や、地域資源マップで見える化をされています。

そして現在は、地域調査で知った多くの地域資源と様々な事業を連携させて効果的・効率的に事業を展開されています！

ココがすごい！

生活支援体制整備事業への思い

生活支援コーディネーターの皆さんに事業にかける思いをお伺いしたところ、3人とも共通していたことは「地域の方の暮らしが良くなればいいな」とおっしゃっていたことと、楽しそうに取組をされていたことでした。生活支援体制整備事業のおもしろさについては、澤本さんは「様々なアプローチや手法があるのに同じところに辿りつくこと」、横山さんは「地域の人とつながれコミュニケーションできるところ」、竹本さんは「一つの事業が様々な意味をもっていること」とのことです！

地域資源 × 支え合いの仕組みづくり＝「地域ささえあい講座」

令和5年度から実施しているのが「地域ささえあい講座」です。

地域調査を実施したことによって知り合った、地域で活躍している方々に活動発表を依頼。活動発表後には「ささえあい」をキーワードに参加者同士がおしゃべりをするという内容です。

令和5年度は志賀地区と妙寺地区の2か所で実施。具体的なおしゃべりの内容は、地域の良いところと課題を出し合って、自分は何ができるかについて話し合うというもの。活動事例からイメージを膨らませ、SCがサポートすることにより、「地域での声掛け（お誘い）を続けていこう」、「移住者を受け入れていこう」という「ちょっとできそうなこと」から、「自分たちで地域をよくしていこう！」という頼もしい声までたくさんの意見が出てきました。

参加者の声

参加者からは、普段なにげなく暮らしているだけでは考えることがなかった「地域のこと」について話し合える良いきっかけになった。地域住民だけでなく社協もおしゃべりに参加することで、第3者の意見で改めて地域にある「ささえあい」を再認識できた。という感想がありました。

今後の取組について

SCのみなさんによると、今回はさらに地域に合った内容にするため、企画段階から地域の人たちと一緒に考えて実施したいと考えている。支え合いのカタチは人によって地域によって様々なので、様々な地域で続けていきたい。ということですので、次の開催がどのような形になるのか今後が楽しみです。



活動発表の様子



おしゃべりの様子



おしゃべりに参加するSC



SCによるまとめ



既存事業の二一ズと地域資源をマッチング 事業連携による生活支援体制整備事業の進め方

福祉学習 × 地域資源 = 「高齢者の健康と看護フィールドワーク」

町社協では以前から県立高等看護学院と連携し学生のフィールド学習を行って来ました。高齢者の活躍の場や集いの場を見学したり交流することで、高齢者の健康と暮らしを学ぶことが目的です。

そこに、澤本さんたち生活支援コーディネーターが提案したことは、地域調査で知りあった様々なジャンルの地域の集いの場や地域のキーパーソンと学生をつなぎ合わせることでした。

駅周辺の掃除を自主的に実施している「笠田駅クリーンチーム」では、地域貢献活動に積極的に参加している皆さんのいきいきとした活動に触れ、「元気のヒケツ」は「よく食べ、よく笑い、よく喋ること」と教えてもらいました。また、毎月3回開催している女子会「レディスポ」では、オリジナルの体操を一緒に行った後、レクリエーションやお茶会で交流し、普段の暮らしぶりを聞き取りました。

さらに、高齢者福祉施設の愛光園では、認知症の方との関わり方について、看護師や施設の方から教えていただくなど、一日を通して高齢者の暮らしぶりから関わり方の勉強まで、様々な方面から学べるカリキュラムでした。

訪問先の高齢者の方々からは、「楽しみに待っていました！玄関から入って来てくれた時から嬉しくて感動しています。」と交流を歓迎する声があり、学生にも高齢者にも双方に良い取組となっていました。



笠田駅クリーンチームのみなさま



笠田駅クリーンチーム
代表 清田さん



レディスポでの体操



レディスポでの交流



福祉施設での学習

夏のボランティア体験 × 地域資源 = 「もったいないカフェ」

「もったいないカフェ」は、町社協で毎年実施している「夏のボランティア体験」と生活支援体制整備事業の地域調査の取組との連携により生まれた事業です。

小学生～高校生とともにカフェ運営を体験しながらSDGsについて考えるというものが「もったいないカフェ」の企画であり、地域調査で知り合った料理が得意な地域の方々に、調理補助のボランティアとして参加してもらいました。



田村さん 中野さん 中谷さん

調理補助として参加した田村さん、中野さん、中谷さんは、「普段、小学生には見守り時に声掛けをして会話をしているが、高校生とは今まで挨拶程度しかできていなかった。今回の企画を通じて、高校生と話すのも全然いけるんやなって感じた。元気をもらえた！」とおっしゃっていました。普段から地域で様々な活動している3人ですが、これからは活動の幅がさらに広がるかもしれません。

参加した児童や生徒は、調理補助の3人に料理やスイーツ作りのコツを教えてもらったり、カフェに来た地域の高齢者の方々と積極的に会話するなど、和気あいあいとした交流の時間となりました。



調理の様子



食事の様子

生活支援体制整備事業の今後の展開

今後は、このような事業連携の取組に併せて、各地域で住民のみなさんと支え合いについて話し合いをする「地域ささえあい講座」を続けていくことにより、つながりの「見える化」を行い、支え合いの仕組みを構築していきたい、と今後の展開を教えてくださいました。

県からのお知らせ

- 県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521